道政報告

H22・3月第一回定例会

❖羊蹄山避難小屋の立て替えが前進

昨年10月羊蹄山に登り避難小屋を調査し、11月の決算特別委員会、第一回定例会で質問しました。老朽化で倒壊のおそれがあるため、地域の強い要請もあり、早急な対応を求めたところ、立て替えの調査費が新年度予算に計上されました。今後は国との協議を行い早期の新設と地域要望にそった仕様となるよう道の対応を促しました。

また、昨年予定していた五色温泉地区ニセコ縦断線歩道整備、通称ジャイアントステップと呼ばれている階段が崩壊し、危険な状態で改修が必要でした。早急な整備を求めました。道ではできる限り早い時期に整備を行うとしております。

❖ひらふスキー場道道整備、ケーブル地中化さらに前進

倶知安、ニセコ周辺地域は国際観光都市として海外からの観光客や外資の資本投下が積極的に行われ、更なる発展の可能性を秘めている地域です。特にひらふスキー場周辺は大きく様変わりし、東洋のサンモリッツと言われる自然景観と共に町並みが築かれてきました。この優れた景観を維持するため、道道整備に伴うケーブル地中化の要望がされてきました、その状況と進捗について質問しました。

道側は現在、調査や関係機関との協議を進め、早期に工事着手できるよう設計などに取り組みたいと考えているとの答弁がありました。平成23年着手、平成24年から25年の早期完に向け、これからも全力で取り組んでいきます。

❖粘り強く精力的に進めてきた新たな交付金が実現

道議会議員に初当選以来、粘り強く取り組み、国に働きかけてきた電力移出県等交付金が7年目にして、やっと新年度予算に計上され、毎年交付されることとなりました。本年は約9億7千万円が交付、原子力発電立地四カ町村に約3億5千万円、特に周辺3町村に長期発展交付金見合いとして交付され、道内の水力、地熱、火力発電立地市町村に約1億2千万円、新たに北海道エネルギーフロンティア事業としてエネルギー産業参入促進事業、道産低炭素化技術振興モデル事業や、市町村が民間企業等と協同して地域の特色を生かし省エネ・新エネ事業を通じ地域経済の活性化を図る取り組みに支援する事業が組み込まれました。

……

そのほか第一回定例会では医療の問題点、難病対策による医療費や精神負担の課題、更なる治療の高度化と医療技術の研究などを質問しました。

農業政策の危機

どうなる北海道農業

新政権による農業土地改良事業の大幅削減では、農業生産は確実に落ち込みます。2020年までに食料自給率50%を目標にするなら、このような農業政策で自給率の達成などできるはずがありません。北海道農業が壊滅しないか憤りを覚えます。そのような中で道財政は逼迫していますが、自民党の要請を受け、道は単独事業を増額することとし地域のインフラ整備を進めます。

暗きょ排水・排水路等の整備が必要であり、整備済みほ場では収量・品質の低下を抑制、昨年の冷湿被害に於いてもはっきりとしており、農作物の安定生産に大きく貢献していることが分かりました。

暗きょ排水と排水路の一体的整備、低コスト工法による農家負担の軽減、ほ場条件に応じた、よりきめ細やかな整備、小規模で機動的にできる事業の実施、などのご意見を頂いており、要望にそった事業を行うとしています。

後志管内では、倶知安町、蘭越町、京極町、共和町、赤井川村、喜茂別町、仁木町、余市町の8町村、24カ所で交付金・補助による平成22年度農業農村整備事業が約8億3千8百万円で行われる予定です。これからも農業政策にしっかり取り組んで参ります。

新年度道予算

後志の公共事業

平成22年度当初予算 2兆8、181億円

仁木赤井川線道道整備、冷水トンネルの早期完成を目指します。

北海道経済が疲弊する中、経済活性化と広大な北海道の社会資本整備を道に求め、前年道単独投資予算946億円から今年度は1千7億円に増額され地域の活性化の下支えとなるものと考えております。

新年度の冷水トンネル工事予算は約17億円23年のトンネル貫通、24年には開通予定早期完成に力を注ぎます、又、継続している余市川の改修は河口付近は今年完成させ、H25を目途に改修完成予定、これまで遅れていた美国川の改修は新年度2億円の予算で用地の収得作業に入っており平成24年には工事着手を目指します、これからも安全・安心、事故のない災害に強い地域を創ってまいります。

その他、後志の公共事業の主として

○農業農村整備事業は8億3千万円。水産基盤整備事業は島牧地区から積丹沖合に至る漁場整備、島牧村、寿都町、神恵内村、積丹町の漁港海岸整備事業費等が約10億5千万円。○治山・林道・造林の森林整備事業では喜茂別町、京極町、ニセコ町、真狩村、倶知安町、積丹町や岩宇・南後志が約15億2千万円。○道路・河川・砂防・海岸等の整備事業は、余市・赤井川間の道道整備約19億円をはじめ余市町栄町温泉線、仁木赤井川線、古平神恵内線、岩内洞爺線、発足前田線、相生蘭越線、倶知安ニセコ線、豊浦京極線等の道道整備、余市川河川改修約4億円のほか喜茂別町、京極町、倶知安町の尻別川水系等道路河川等整備予算約87億円の事業が予定されており、後世にしっかりと受け継がれ、自然災害に強い安全・安心の社会資本整備を確実に進め、地域力を一層高める基盤が構築されるものと考えています。

—2期目残すところあと1年、3期目に向け—

農林水産業の更なる振興

- ●生産基盤の充実で持続的農業の発展
  - ＊農業基盤整備事業と担い手の育成・確保対策の強化
  - ＊地産地消システムの確立
- ●実行力のある漁業経営安定対策の強化
  - ＊漁場の環境改善、トドや磯やけ対策の推進による日本海漁業の振興
  - ＊漁場、増養殖事業の基盤強化
- ●林産業の振興
  - ＊緑の整備促進による地球温暖化防止対策の推進
  - ＊森林整備、森林保護事業の推進

景気の回復と雇用の創出

- ●「ものづくり」産業地域を担う人材の育成
  - ＊研究開発や技術者養成による「ものづくり人材」の育成
  - ＊「ものづくり産業」活性化による食品および工業等製造業の育成支援
- ●産消協働と地域産業力の強化
  - ＊一次産業と結びついたすそ野の広い二次、三次産業の育成
  - ＊中小企業、中心商店街の再生
- ●環境リサイクル産業の振興
  - ＊新エネルギー施策の新たな展開と省エネルギーの促進
  - ＊資源リサイクル型の地域社会システムの構築

「京極の自然を守る会」こどもたちとヤマベの放流

魅力あふれる観光後志の形成

- ●地域の個性を生かした観光振興と国際化推進
  - ＊グリーンツーリズム、エコツーリズムの普及拡大
  - ＊国際化に向けた受け入れ体制の充実強化
- ●「食」と「観光」のブランド化
  - ＊観光客に対するソフト・ハード面のホスピタリティーの向上
  - ＊地域間競争・国際競争に打ち勝つ足腰の強い地域観光力の増強
- ●観光と連動した社会基盤整備の促進
  - ＊高速道路・新幹線の早期整備と観光・流通アクセスとしての道路網の整備促進
  - ＊観光情報提供体制の強化

少子・高齢社会対策と福祉の充実

- ●子育て支援の強化
  - ＊多様なニーズに応えうる保育サービスの提供
  - ＊地域全体で子育てを応援する環境づくり
- ●心身の成長、人間形成に大きな影響を及ぼす食育の推進
  - ＊学校教育過程における食育の推進・充実
  - ＊地域社会における食育の普及
- ●高齢者、心身障害者支援の充実
  - ＊広域連携による医師確保対策と救急医療体制の強化
  - ＊療養病床再編に伴う入所施設の確保

安全・安心のまちづくり

- ●暮らしの安全・安心の確保
  - ＊いじめや暴力のない青少年健全育成教育対策と社会環境　の整備
  - ＊食の安全・安心による消費生活の向上
- ●災害に強いまちづくりの推進
  - ＊地震、津波対策など防災対策の強化
  - ＊住宅、建築物の耐震改修の促進
- ●犯罪のない地域社会の構築
  - ＊地域ぐるみの防犯体制の構築
  - ＊少年非行対策の推進